大正六年一月

臺北廳士林地方に於ける薑栽培

出版第一一三號

臺灣總督府農事試驗場

目次

一 緒言……一
二 用途……一
三 土質及主產地……二
四 品性……二
五 輪栽法……三
六 稚蕓……三
七 栽培……四
八 肥料……五
九 收穫……五
一〇 販賣……六
一一 收支計算……七

農業部農業試驗所典藏
由國家圖書館數位化

臺灣總督府農事試驗場
農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳士林地方に於ける 薑栽培

臺灣總督府農事試驗場技手　安倍輝吉

一　緒言

薑は蘘荷科に屬する植物にして學名を Zingiber officinale, Rose と稱し、東印度の原産にして支那に於ては古來より廣く之れを栽培せりと云ふ。本島に於ける之れが栽培の起原未だ詳かならざるも、恐らく對岸地方より輸入せられたるものなるべし。現今温暖なる地方にありては世界各地共多少栽培せらるゝも、就中亞細亞及亞弗利加の熱帶地方に於て其栽培盛んなり。歐米諸國に於ては未だ之れが産出少なきがため、主として英領東印度、英領西印度(Jamaica)、佛領印度、蘭領東印度、亞弗利加(Sirraleone) 支那及日本等の温暖なる地方より乾薑及蜜餞として輸入せられ、我國よりの乾薑年輸出額五十萬圓に達す。而して本島の氣候風土は能く薑の生育に適し、全島各地に亙り其栽培面積四百四十餘甲歩(大正元年調査)に達するも、未だ蜜餞乾薑等の輸出を試みたるものなく、主に新薑(幼薑)として、島内の需要を充すに過ぎず。左に總督府農事試驗場に於て薑栽培試驗の必要上臺北廳士林支廳下の薑作に就き調査せし所を概要記載せんとす、多少參考ともならば幸甚なり。

二　用途

爽快なる薑の辛味は一種の揮發油によるものにして從來主に香辛料として用ひられしが、近時製菓、蜜餞、乾薑（乾薑は主にジンジャエル及ジンジャビヤー等の原料に供す）製造用として其需要

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

益々多く、又醫藥としては發汗劑となり感冒等に效ありと云ふ。本島にては主に味噌漬となし副食物に用ひ。其他蜜餞、製菓原料、調味品及醫藥用等に供す。

三　土質及主産地

薑は排水良好にして稍輕鬆なる壤土及砂質壤土に適す。而して本支廳下の主産地は公舘地庄、永福庄、草山庄、石角庄（以上山地）及石牌庄、唭里岸庄（以上平地）にして、山地の土壤は安山岩の崩壞せる壤土にして、平地は第四紀新層に屬する壤土なるを以て、薑栽培地として最も適當なり。而して本支廳下の栽培面積は年により多少の增減あるも大正二年臺北廳農會技手郭國士氏の調査に據れば約三十甲歩なりと云ふ。

四　品種

本島に於ける薑の品種は各地方により其品種名を異にし、約三十種に及ぶも同名異種異名同種の品種多く、總督府農事試驗場に於て目下之れが試作調査中にして、其成績未だ完結に至らざるも、大體に於て次の四種に區別することを得るが如し。

一、黃肉薑　本島各地に於て最も廣く栽培せらるゝ品種にして、黃肉、黃薑等と稱す。大さ中位節間稍々短く、表皮淡灰褐色、肉色淡黃、新芽赤色を呈し、辛味强き品種なり本支廳下に於て栽培せらるゝは多く本種なり。

二、竹仔薑　本島に於ては黃肉薑に次ぎ廣く栽培せらるゝ品種にして、形細長節間長く竹節に似るを以て、此名あり、肉色淡黃新芽白く辛味强き品種なり本支廳下には栽培者少なし。

三、大薑　廣東薑、大目薑、粗鱗薑等と稱する品種にして形長大、肉は淡黃色を呈し、新芽赤く辛味稍々少なし。支那廣東にて蜜餞用に供するは本種と同一種なるが如し。本支廳下に栽培せるものを見ず。

四、青肉薑、大さ中位、節間稍々短く、内皮及肉部稍々綠色を帶ひ、芽白く辛味稍々强き品種なり。本支廳下に於て栽培者ありと言ふも未だ目擊せず。

五　輪栽法

前述の如く薑栽培地は山地及平地にして、山地に於ては主に新開墾地の初作物として薑を栽培し、平地にありては水田地に栽培す。今該地方に於て普通行はる、輪栽法を揭ぐれば次の如し。

位置	一年	二年	三年
山地（開墾畑）	薑（三月植 九月收）甘藷（九月植 三月收）	甘藷（三月植 九月收）甘藷〃	甘藷、甘藷
山地（普通畑）	薑（三月植 九月收）甘藷（九月植 三月收）	甘藷（三月植 九月收）甘藷〃	甘藷、甘藷
平地（水田）	薑（三月植 七―九月收）甘藷（七月植 三月收）	水稻（一期作）水稻（二期作）	薑、甘藷

六　種薑

薑は食用に供する部卽ち根莖を以て繁殖用に供するものにして、品種の特性を具備し、「節間短く」、水分中庸にして無傷のものを良とし、普通山地產を種薑用に供す。平地產は水分多く、栽植後腐敗するの恐あり。且つ節間長く一定量中の芽數少なきが故に、不良なりと稱し、用ふるものなし。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

是れ平地にありては舊來の習慣上軟白栽培のみをなすの結果、種薑として不適當なると、跡作の關係上山地産を用ふるものなるべし。種子用薑の收穫期は栽植前即ち二、三月の頃にして、收穫後直に栽植するを以て貯藏するの必要なし。種薑は長さ約三寸に切斷し、其栽植量は山地反當五六百斤なるも栽培の目的を異にする水田に於ては一千斤內外を用ふ。山地産種薑百斤一圓二十錢內外なり。

七　栽培

(一)　山地栽培

整地及栽植　新開墾地は一、二月頃迄に開墾を終り、三月中下旬畦幅一尺五寸乃至二尺毎に幅五寸深さ七、八寸の植溝を掘り、之れに株間五寸位とし、種薑を栽植し二、三寸の厚さに覆土す。

管理　發芽後一箇月を隔て三四囘中耕除草及培土を行ひ生育を助く。

(二)　平地栽培

整地及栽植　平地に於ける薑栽培地の多くは水田なるを以て、水稻第二期作收穫後(十一月上旬)直ちに耕起し、風乾せしめ、二月頃刈耙にて土塊を碎き、三月上旬栽植前第二囘目耕耙をなし、刈耙及手耙にて土塊を碎き、地表を均らし、畦幅一尺五寸毎に幅五寸深さ約一尺の植溝を掘り、之れに種薑を竝列し、三四寸の厚さに覆土す。株間距離は約三寸のものと一約五寸のものと一畦隔に栽植す。

管理　平地は山地に比し收穫の時期一般に早きを以て、中耕除草及び培土等、亦從つて其期間を短縮し、普通發芽後二十日間を隔て、四囘行ふ。尙は旱魃甚だしき時は時々灌水して生育を助く。

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

八　肥料

山地にありては主に土糞を用ひ、栽植後其上に全量を施し追肥として施用すること少なく、平地にありては大豆粕を三回に分施すと云ふ、其反當施用量次の如し。

位置	肥料名	元肥	追肥 第一回	追肥 第二回	計
山地	土糞	四〇〇貫	ー	ー	四〇〇貫
平地（水田）	大豆粕	四枚	三枚	三枚	一〇枚
施肥期	ー	栽植後發芽迄の期間	五月	六月	ー

九　収穫

薑は發芽後翌年三月に至る迄堪へず収穫することを得るものにして、本島にては其収穫時期の關係により、幼薑粉薑及薑母の三種に區別す。

一、幼薑　五月乃至十月薑未だ硬化せず、纖維少なき時収穫せるものにして、本島に於ては多く此時期に収穫し、香辛料、味噌漬其他の用に供す。収穫時期早きものは収量少なきも價高し。

二、粉薑　薑の充分成熟せる十二月以後に収穫せるものは、製菓、乾薑及種子用に供す。種子用のものは之れを種薑と云ふ。

三、薑母　新薑の附著せる種薑の名にして、普通古根と稱するものなり。辛味强烈なるを以て主に

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

藥用及香辛料として用ひらる。

本支廳下平地（水田）に於ては殆んど全部幼薑として收穫し、山地に於ては幼薑及粉薑として收穫す、平地の收穫期は七月上旬乃至九月上中旬にして、栽植の際一畦隔に株間距離を異にし置きたる株間狹きもの（株間三寸）を七月上中旬收穫し、收穫後直ちに其畦の土壤を隣畦の培土用に供し、次作物たる甘藷を此畦の一側（薑の横側）に挿植し、九月上中旬薑全部を收穫す。反當收量七月上中旬收穫のもの千五百斤（葉付）九月上中旬收穫のもの三千斤內外（莖部少しく附著）なり。山地の收穫期は八九月（幼薑）及二三月（粉薑）收穫するもの最も多く、反當收量幼薑（莖部少しく附著）粉薑（莖部附著せず）共三千斤內外なり。山地に於ては此外二三月頃收穫せずして、其儘肥培し五月頃新芽の少しく生長せるとき收穫し幼薑及薑母として販出するものあり。

薑母の殘留する量は普通の栽培法に於ては種薑量の約六割なりと云ふ。

一〇 販賣

本支廳下産薑の賣買は多く士林街市場に於て行はれ、栽培者の多くは各自生產品を士林市場迄運搬して販賣し或は畑地植付の儘其他畑地渡百斤價格何程とし賣買することあり。士林市場に於ける購入者は仲買人、小賣人及需要者等にして、仲買人は稍々遠距離の地（桃園及基隆地方）に搬出し、又大稻埕、臺北市場に卸賣をなす。小賣人は臺北附近の農家其他の需要に應じ小賣をなす。價格は年により多少高低あるも、士林市場に於ける大正四年及同五年の平均卸相場を舉ぐれば次の如し。

種別 \ 月別		百斤價格
粉薑	二月	1.300円
	三月	1.300円
幼薑	六月	4.000円
	七月	2.000円
	八月	1.500円
薑	九月	1.100円
	十月	1.000円
薑母	—	0.500円

二 收支計算（反當）

(一) 山地栽培收支計算

（士林支廳下公館地庄二番地鄭媽樹に就き調査）

支出之部

一、金貳拾九圓六拾錢也

內譯

種目		數量	單價		金額	備考
小作料		—	—		2.000円	
種薑		500斤	百斤 1.300円		6.000	百斤價格は山地相場なり
肥料（土糞）		2.500	0.100		2.500	
人夫賃	整地	牛一頭 男五人	牛 0.500 男 0.400	2.500円	18.100円	
	施肥及植付	男一〇人	0.400	4.000		
	中耕除草及培土（四回）	男八人	0.400	3.200		
	收穫及調製	男六人	0.400	2.400		
	士林迄運搬	男一五人	0.400	6.000		
農具損料其他		—	—		1.000	

收入之部

一、金參拾四圓五拾錢也

種目	數量	單價	金額
幼薑（九月收穫）	三・〇〇〇斤	百斤 一・一〇〇円	三三・〇〇〇円
薑母	三〇〇斤	〇・五〇〇円	一・五〇〇円

差引純益金四圓九拾錢也

（二）平地栽培收支計算（士林支廳下石碑庄百九十三番地魏庭碧に就き調査）

支出之部

一、金五拾九圓六拾四錢也

內譯

種目		數量	單價	金額	備考
小作料		一	一	九・二四〇円	一箇年の小作料籾二石四斗蕃作七分跡作（甘藷）三分籾一石五圓五拾錢とし計算す
種薑		一・〇〇〇斤	百斤 一・三〇〇円	一三・〇〇〇	
人夫賃	種薑士林よりの運賃	一・〇〇〇	百斤運賃 〇・一〇〇	一・〇〇〇円	
	整地	牛 三頭 男 一三人	牛 〇・五〇〇 男 〇・四〇〇	六・七〇〇	
	植付	男 五人	〇・四〇〇	二・〇〇〇	
	施肥	男 三人	〇・四〇〇	一・二〇〇	
	中耕除草及培土	女 九人 男 六人	〇・一五〇 〇・四〇〇	三・七五〇	
	（計）			二一・一五〇	

收穫及調製	男 五人	0・四00	二・000
士林迄の運賃	四・五00斤	百斤運賃 0・100	四・五00
肥料（大豆粕）	一0枚	一・五00	一五・000
水租	―	―	0・二五0
農具損料其他	―	―	一・000

收入之部

一、金六拾七圓也

內譯

種目	數量	單價	金額
幼薑（七月收穫）	一・五00斤	百斤 二・000円	三0・000円
同（九月收穫）	三・000	同 一・100	三三・000
薑母	六00斤	百斤 0・五00円	三・000円
莖葉（肥料とす）	一・000	同 0・100	一・000

差引純益金七圓參拾六錢也

本調査は臺北廳士林支廳下石牌庄百九十三番地魏庭碧同公舘地庄二番地鄭媽樹、同石角庄林同享、同永福庄百三十六番地周石能の諸氏に就き調査したるものにして、調査に際し臺北廳農會技手郭國士氏の薑栽培調査を參考とせること少なからず。尙は總督府農事試驗場技師井街顯氏及同技手鈴田巖氏の助力に依る所多きを以て此所に明記して感謝の意を表す。

127

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

BULLETIN NO. 113. JANUARY, 1917.

AGRICULTURAL EXPERIMENT STATION

Government of Formosa.

The Cultivation of Ginger in Taihoku.

By

Terukichi Abe.

Published by the Station.
Taihoku, Formosa,
Japan.

22